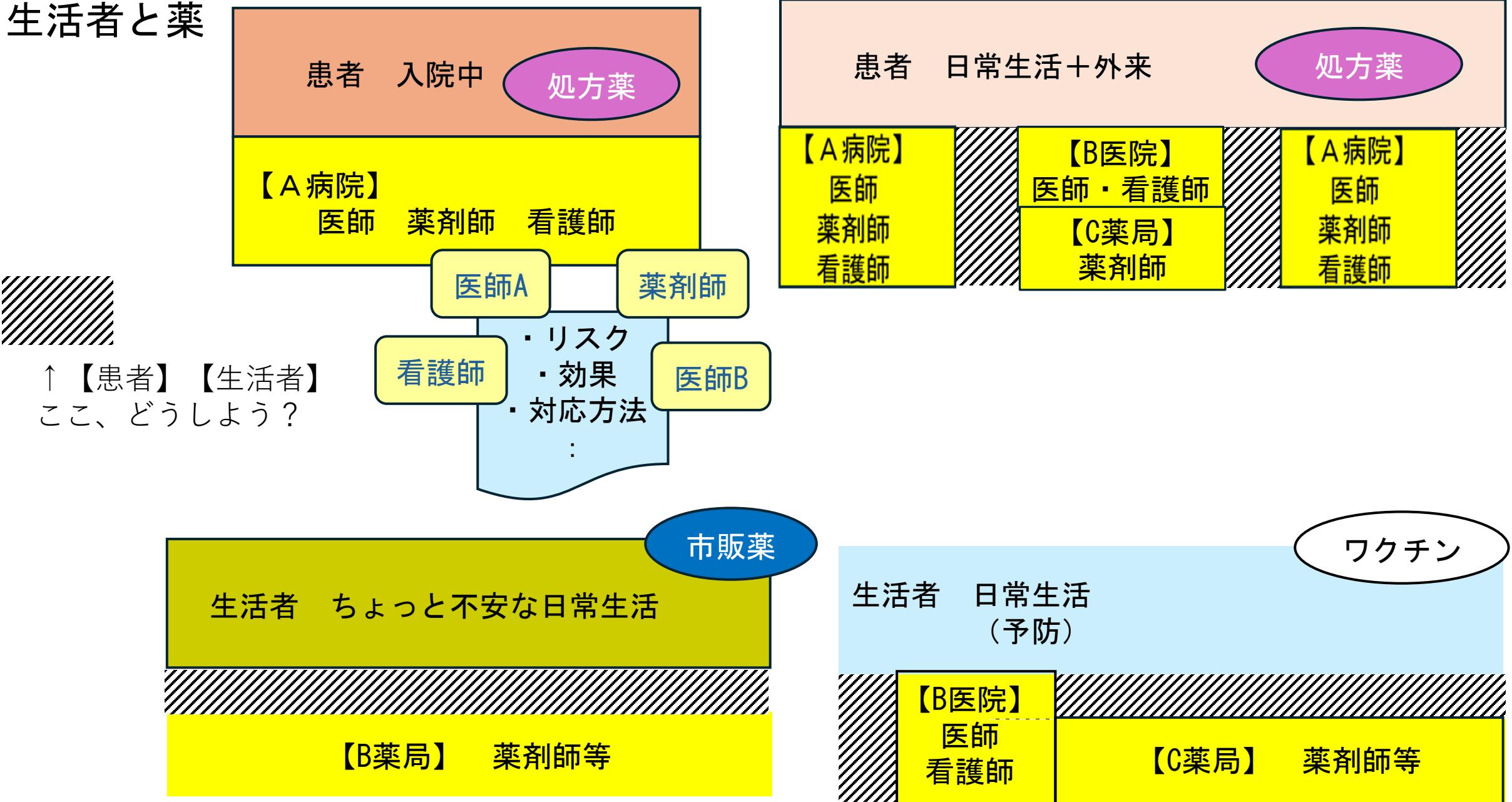


医薬品等行政評価・監視委員会
5周年シンポジウム

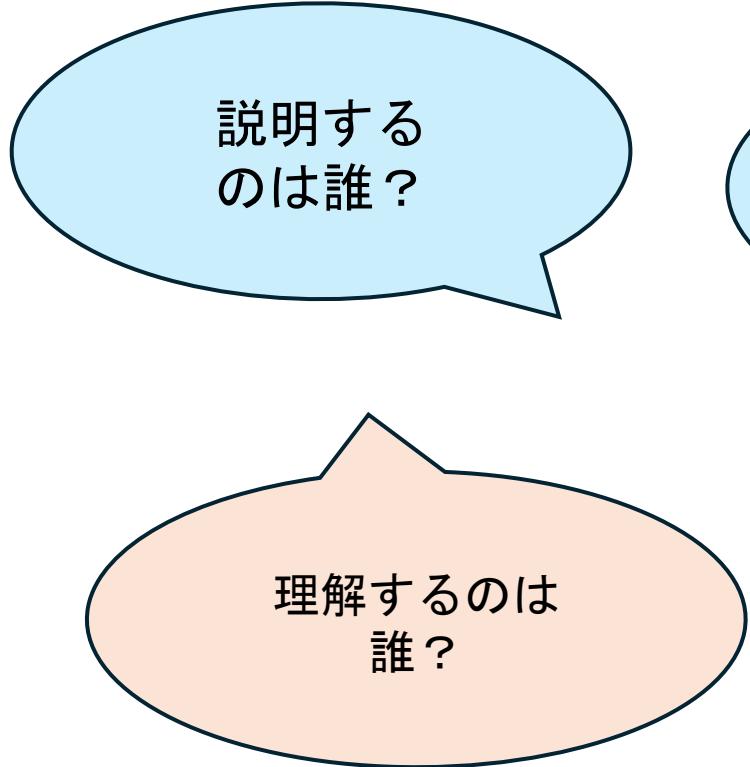
生活者の立場で

戸部依子
2025.11.13

生活者と薬



患者、生活者が、どうなる／どうすることを想定した説明、文書
(パンフレット、情報提供資料等)が良いのか？



医薬品を提供する者、受け
る者（患者、生活者）が、
相互に説明し、相互に理解
するためには何をするか？

どのように伝えたら良い？

“100%安全な薬” はない。“安全に” 使うために何を知って、何をする？

想定されるリスクの種類	対象例	生活者が知りたい／知る必要がある情報例
薬剤自体のリスク	すべての医薬品 (承認対象となる薬剤・薬効)	<ul style="list-style-type: none">・安全性評価、治験など・用法用量を守って使用すること
使用場面のリスク	血液製剤（大量出血への対処等） ワクチン（子宮頸がんワクチン、 新型コロナワクチン等）	<ul style="list-style-type: none">・有用性の考え方 リスク衡量に関する共有・使う／使わない+<u>代替案</u>の検討（できる？）
使い方のリスク	オーバードーズ	<ul style="list-style-type: none">・オーバードーズにならない方法 製剤の設計上の工夫（剤形や成分） 販売方法・決められた使い方による影響の有無
	国内で承認されていない用法 治療目的以外の使用	<ul style="list-style-type: none">・当該薬剤の必要性・当該薬剤の必要量と供給量・配置先のトレーサビリティ